

# 庄内総合支庁における「元気な農村づくり」の取り組み

令和6年1月16日  
庄内総合支庁

- 中山間地域の農業生産振興と農村活性化に向けて、職員自らが農村集落に入り、地域資源の掘り起こしや集落の強み・弱み・改善に向けた行動計画の策定について、住民同士の話し合いを活性化させるワークショップ手法を用いて支援を実施中。
- 「豊かなむらづくり全国表彰」において内閣総理大臣賞等を受賞するなど、農村づくりの優良事例が出ている。



<たらのき代地区（鶴岡市榎引）でのワークショップ>

【現状】庄内地域の総人口はここ10年間で10%（30,739人）減少。特に中山間農業地域では22%（9,492人）の減少。従来農村集落にあった資源管理（農地・自然）や相互扶助といった機能が失われつつある。

## 【事例①：越沢地区（鶴岡市温海）】

### 「越沢三角そば」のブランド化と、住民総参加の農村づくり

- ・「そば処まやのやかた」の運営による女性活躍の場の創出
- ・三角そばの安定生産に向けた自治会による全量買い取り
- ・やまがたの棚田20選「越沢の棚田」や「郷清水」の保全管理
- ・本年度、豊かなむらづくり全国表彰において内閣総理大臣賞を受賞



## 【事例②：日向地区（酒田市八幡）】

### 「日向里（にっこり）かふえ」を拠点とした大学・企業等との交流を通じた農村づくり

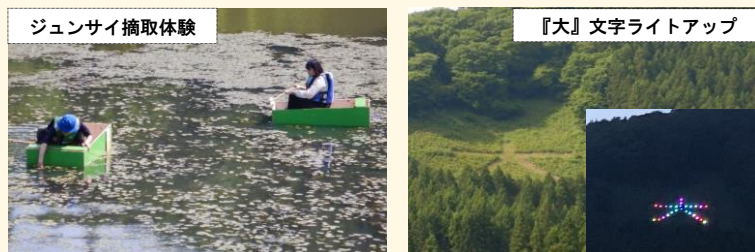
- ・地元の食材を活用したメニューの提供と、農産物や加工品の販売
- ・東北公益文科大のサークル「Praxis（プラクシス）」による日替わり店長
- ・良品計画との連携による移動販売
- ・令和4年度に、豊かなむらづくり全国表彰において農林水産大臣賞を受賞



## 【事例③：大沢地区（酒田市八幡）】

### 住民全員による地域資源を活用した「面白いこと」の活動による農村づくり

- ・手作りの木舟によるジュンサイ摘取体験の受け入れ
- ・八幡小学校の児童が色・配置をデザインした『大』文字ライトアップ
- ・耕作放棄地を活用したマコモダケの収穫体験



## 【成功事例の共通点】

共通認識  
（誇り・危機感）

小さな成功体験  
（積み重ね）

拠点  
（集える場・資源）

共通点を活かした  
新たな展開

庄内総合支庁、市町、関係NPO法人、大学等で構成する「伴走支援チーム」を編成し、農村RMO（農村型地域運営組織）の形成を支援するなど、元気な農村づくりを積極的に推進。  
（日向地区及び大沢地区は、農村RMOの設立を予定）